

依頼者の気持ちに向きあうには、  
事件にしっかりと向きあうこと。

福岡事務所 弁護士 横山 令一

駅のホームに着いた途端、その人は、目を輝かせて走り出した。  
弁護士「頭がいい。誰もが漠然と抱くイメージはないだろうか。その意味で横山はイメージ通りである。M E N S A 会員。豊かな知識を持ち、淀みなく論理的に話す姿は、いかにも頭の切れるエリート弁護士かもしれない。  
だが一方で、少年のような一面も持ち合わせている。熱心な鉄道ファン。子供の頃から鉄道好きで、鉄道のことになると話し出したら止まらない。そして、現在は「ダーミタリ」に夢中。あたかも自分が推理小説の登場人物になったかのように事件を解き明かしていくゲームだ。「証拠をもとに犯人を推理して仲間と共有したり、自分が犯人の場合は隠蔽したり。論理的思考力、説得力、交渉力などが培われる。弁護士業務にもすぐ役立つんですよ」その言葉の通り、彼の仕事ぶりは「ダーミタリ」を攻略するようでもある。解き明かすのは殺人事件ではなく、労働問題など民事の案件がほとんどではあるけれど。「ひとつの資料や単体の証拠だけを見るんじゃなくて、全体を視渡して掛け合わせることで、真実が浮かびあがってくる」物事の表面だけを見るのではなく、論理を緻密に組み立てて結論にたどり着く力。対象に熱中する力。それが横山の強みだ。  
「私が提案した書類に修正が必要な時も、ただダメだというだけじゃなくて、なぜダメなのかちゃんと教えてくれる。考え直す機会をくれる。だからモチベーションを保てるし、成長できる」彼と仕事をすると、多くの事務員たちも口を揃えて言う。そう、横山は、事件に向きあうのと同様、人間に対しても真摯に向きあっているのだ。「事件が解決した時の依頼者の晴れやかな表情を見ると、やりがいを感じる。納得していただくことが一番なので、懇切丁寧に説明します」  
他の弁護士も「目置くほどに、鋭く的確。誰よりも多くの仕事をこなす横山だが、その底にはいつも人間への思いがある。  
「目指すのは、労働分野に強い弁護士。過酷な環境で「プライベートが犠牲になり、解雇で生活が崩れたりする人が、まだ大勢いる。だからこそ労働者、理不尽な環境で働く人々の力になりたいんです」

法律のスペシャリストとして、ひとりの人間として。  
弁護士も法律事務員も、あなたと同じ目線に立って。  
人間としての感覚を大切に、嘘のない態度で、あなたに耳を傾け、真摯に向きあいたい。  
人生において、どうにもできない問題を抱えたとき。  
平松剛法律事務所は、心から信頼できるパートナーとして、全力で解決にあたります。

# 人として、人と向きあう。 平松剛法律事務所